

仙台市太白山自然観察の森 情報誌 2024年7月号

# 森のおくりもの7

NO.394 The Gift from Woods

ヤブレガサ（キク科）



雨に濡れた「ヤブレガサ」、蕾を沢山つけて梅雨時に開花します。6月後半は気温が高い日が続き森の植物もカサカサしている感じでしたが、恵みの雨は森に潤いをもたらします。雨の多い日が続きますが、観察の森の「ガイドウォーク（案内付きの森の散策）」は雨でも毎週日曜日に開催されますので、晴れた日とは違った森の魅力をお楽しみください。 【館長：佐藤由美】

# 森のことは

自然の様子や出来事を四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします。

## 『同じ穴の貉（おなじあなのむじな）』

ある日、森の中で何かの気配を感じて立ち止まったところ、アナグマと出会いました。“クマ”とついていますが、クマではなくイタチの仲間です。夜行性で地中に深いトンネルを掘った巣穴に数頭で暮らします。タヌキと体格や見た目がよく似ていて、見慣れた人でないと見分けるのが難しいかもしれません。アナグマとタヌキとハクビシンとアライグマの4種は、一見するとどれも同じに見えるそっくりさんで、よく見間違えられます。また、アナグマとタヌキとキツネは、同じような環境で棲息していることもあり、昔から混同されています。アナグマの別名は貉（むじな）ですが、貉は本来タヌキやアナグマの俗称で、主にタヌキを指していたようです。

貉といえば、『同じ穴の貉』がすぐに思い浮かびます。「一見別なように見えても実は同類である」ことを表す言葉です。アナグマの穴にタヌキが棲みつくことが実際によくあるので、「違うように見えても仲間である」というのが言葉の由来です。でも、本当の状況では「同じように見えても実は全く違うものである」という意味にした方が相応しいのではないかと思いました。

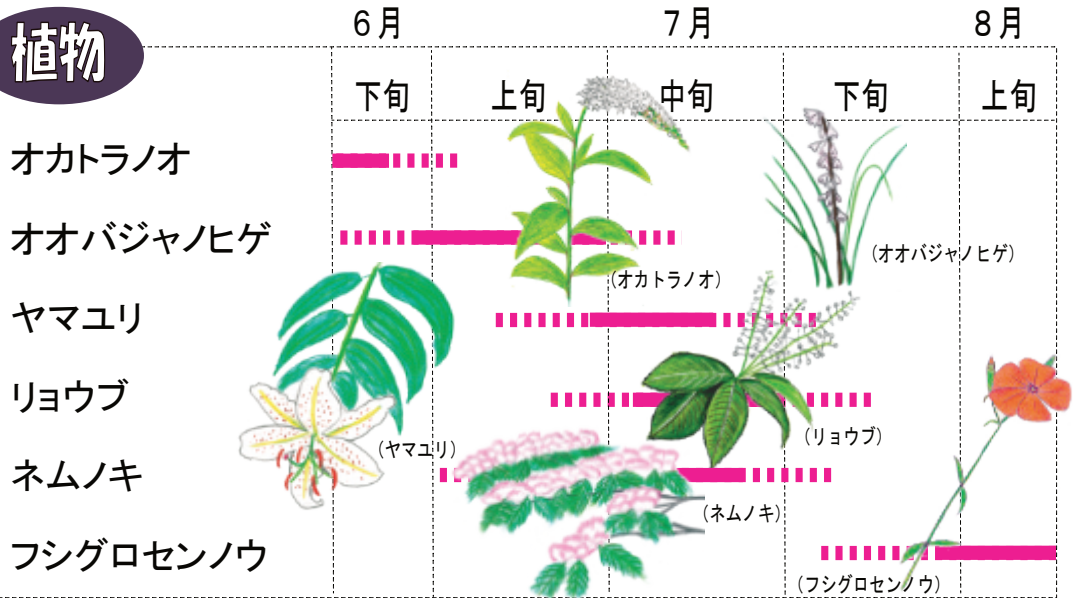
タヌキ汁という料理があるのですが、使っているのはタヌキではなくアナグマの肉だそうです。アナグマは美味しいけど、タヌキは不味いらしいです。猟師がアナグマを追い詰めて巣穴から燻り出そうとしたところ、アナグマではなくタヌキが出て来たという体験が、タヌキに化かされたという話の由来になったのではという記述がありました。また、古くは「同じ穴の狐」の形が多く、近代になって“貉”の表記になるようです。狐や狸と同一視され、貉は人を化かすものという概念になったのではないかと推測しました。調べるほどに混同されたことで取り違えている話が出てきて興味深いです。

散策路では地面を掘って食べ物を探した跡が見られます。アナグマのものもあるはずですが、大抵イノシシの仕業だと思ってしまいます。痕跡までも見間違われて、アナグマは混同されがちな動物ですね。【レンジャー：新田隆一】



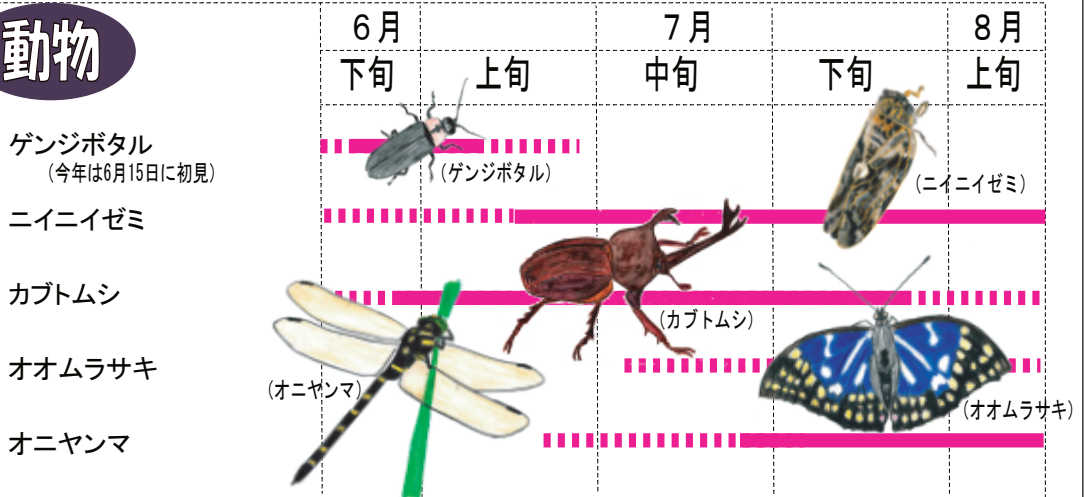
# 7月の生物ごよみ

## 植物



6月22日(土)19時から『夜の森の観察会』を開催いたしました。毎年人気があるイベントで今回も定員20名はすぐに満員になり、その後も申込者が殺到し20件以上お断りすることになりました。参加できなかった方々には本当に申し訳なく思います。この紙面を通してお詫び申し上げます。さて観察会ですが、まずは駐車場でコウモリ観察から始まり、その後ゲンジボタルの観察会へとつりました。19時40分ごろから少しずつ光始め、はじめて光ったときは歓声も上がりました。後半は少しの時間でしたが森の中を歩き、クワガタなど樹液に集まる昆虫を観察することが出来ました。今回は天気にも恵まれ参加者はみな満足の様子でした。今後もこのイベントは続けていきたいと思ひます。【レンジャー：齋 正宏】

## 動物



# 森の「あれこれ」



## 「アワブキの宇宙船」



まだ6月の末なのに晴れた観察の森は真夏の日差しです。森を歩くとアワブキという樹の先端に何やら怪しい気配、近づいてみると窓のような穴のあいた丸められた葉っぱが（左の写真1枚目）！この不思議な物体を紹介していた図鑑には“まるで宇宙船”とありました。この言い方がおもしろくて、今の季節はアワブキの樹でこの“宇宙船”を探します。

糸でつづった葉をていねいに開けてみると、中にはオレンジ色の頭と黒と黄色のしま模様のボディ、正体はアオバセセリという蝶の幼虫がいました（写真2枚目）。

まだ小さくてわかりづらいでしょうか。去年の終齢幼虫（さなぎの前の幼虫）の写真のをせました（3枚目）。なかなかのインパクト大です（笑）。実は今日も観察をしましたが順調に育っていて、しばらくすると写真のような終齢そしてさなぎに、そして羽化した姿が見られるかもしれません。

地味な色合いの多いセセリチョウの中では例外的に青緑色のきれいな蝶です。幼虫も成虫も見つけるとときめきますが、ただ私自身まだまだ出会う機会が少なくわからない事が多くあります。

最後の写真は観察の森でフジの花に来たアオバセセリですがクズの花で吸蜜する姿を何度か見かけた事があったのでこれから期待できるかもしれません。

今シーズンも楽しみながらがんばって探してみましよう!!

【レンジャー：木田秀幸】



# 森は生きている！



観察の森では心地よい春の季節が終わり、新緑の季節へと移り変わっています、それと同時にいろんな生き物たちが、登場し始めるのですが、森でよく見かける、私がカワイイなど独断で感じた生き物たちを簡単に紹介したいと思います。



森のマスコットの存在の小鳥で「シジュウカラ」を紹介します、スズメサイズの白い頬、腹の黒いネクタイが特徴的ですが、ちょうど川岸に生えているコケをつまんでいる様子が見えます、おそらく巣の材料にするのではないかと思います、器用につまんでる姿がとても可愛かったです。

こちらは、苦手な方も多いと思いますが、「ヤマカガシ」というヘビの子供です、水族館にいる「チンアナゴ」という魚のように、穴から首だけ出して、外の様子をうかがっている姿が可愛いです、が国内最強の毒を持っているということなので、柵の外を歩かないように注意してください。



こちらは「ニホンアカガエル」という日本固有種のカエルです、よく目にしますが、他の地方では数が減って、絶滅危惧種に指定されています、ジャンプ力に優れており、よく似たカエルでヤマアカガエルがいます、つぶらな瞳がとても可愛いです、繁殖期以外は地上で暮らしています。

これからさらに気温も高くなり、夏真っ盛りになるにつれて、いろいろな生き物がもっと増えてくると思います、日々変わりゆく景色も、その時にしか見ることのできない貴重なものです、たまには森のフィトンチッド（森林の精気）を浴びに、森林浴をかねて観察に来てはどうでしょうか。 【レンジャー：菅井 潤】

# 7月のイベント & お知らせ



## ◆「森のアート感さつ会『きのこの森のアート』」

【日時】7月20日(土) 10:30~12:00

【募集】小学3年生以上 10名 中学生以下は保護者同伴  
名前や食べられるかを知ることではなく、きのこの芸術的な造形に注目して自然のアートを楽しみます

【持ち物】飲み物、帽子、虫除け薬、かっぱ、歩きやすい服装と靴

【申込み】7月6日(土)午前9時より電話受付(先着)

## ◆「セミの羽化を観察しよう」

【日時】7月20日(土) 19:30~21:00

【募集】小学3年生以上 20名 中学生以下は保護者同伴  
センター前の広場で羽化するために地上へ出てきたセミの幼虫を探し、脱皮や羽が乾いていく様子を観察します ※雨天中止

【持ち物】懐中電灯、飲み物、虫除け薬、歩きやすい服装と靴

【申込み】7月7日(日)午前9時より電話受付(先着)

## ◆「夜の昆虫観察 ライトトラップ観察会」

【日時】7月27日(土) 19:00~20:30

【募集】小学生以上 20名 中学生以下は保護者同伴  
昆虫に詳しい講師を招き、光に寄って来る昆虫の習性を利用したライトトラップでおびき寄せた昆虫を観察します ※雨天中止

【持ち物】懐中電灯、飲み物、虫除け薬、歩きやすい服装と靴

【申込み】7月9日(火)午前9時より電話受付(先着)



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



**ガイドウォーク** 毎週日曜日開催  
申込み不要、どなたでも参加できます

**開催日: 7日, 14日, 21日, 28日**  
**時間: 10:00~11:30, 13:30~15:00**  
**※4月~11月は午前と午後実施します**

**休館日**



**8日, 16日, 22日, 29日**  
毎週月曜日休館、月曜日が祝祭日の場合翌平日が休館

### 観察の森へのアクセス

#### 宮城交通バスの場合

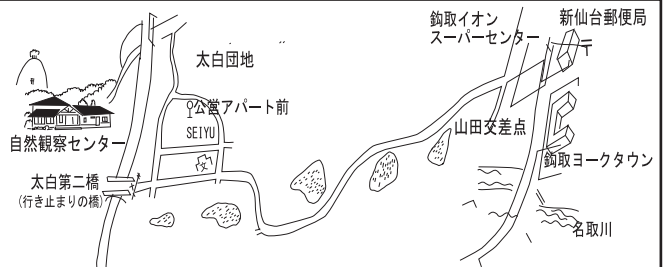
- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
- ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
- ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分

【行先】①②③「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」

※③のみ「太白団地、山田自由ヶ丘經由仙台南ニュータウン行」  
いずれも 公営アパート前 下車 → 徒歩15分

#### お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。  
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。  
駐車場から徒歩5分でセンター



〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63  
Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

発行: (公財)仙台市公園緑地協会

編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター